

兵庫縣羊齒おぼえ書 (2)

稲田 又 男

△ 雪彦山

16 イヨクシヤク *Diplazium Okudairai* Makino
本種は兵庫県で未記録の羊齒であり昨年(1951)8月16日に田川先生(京大)と御一緒に採集の際に得たものである。分布としては四国愛媛県岩屋山にて奥平氏によつて初めて採集され、其後山口県滑山国有林(岡国夫氏)及び近畿地方では奈良室生山(天然記念物として指定されている)、同じく奈良県多武峯、更に昨年田川先生によつて奈良市春日山に産することがあきらかになつた。これらの産地はいずれも奈良県であり、本県では最初の採集であつた。

17 ナチシダ *Pteris Willichiana* Agavph.

本種もイヨクシヤクと共に本県での未記録のものであり、同じく田川先生と御同行の際木馬道の側で得たものである。1株あつたのみで、発育はあまりよくない。これは雪彦山そのものが本種の産地からいへば相当北にあるので、壮大と云う程伸びる事はのぞめない。本種はその和名の示す如く和歌山県那智に産することはよく知られており、その他近畿地方では和歌山県田辺以南はそう稀な種類と云う程でもなく、又三重県志摩半島以南にも所々に産し、紀伊半島の中央部では奈良県春日に生育するのみである。四国、九州の最も暖い地方では紀伊半島南部と同じく、そう稀な種類ではない。北陸では福井県奥和田村にシロヤマシダ、イワシダと混生しているとの事である。関東では伊豆の天城山に産すると倉田悟氏(東京)が報じていられる。

以上が大体本種の産地であつて、本県に産しても別に不思議ではないが、前述のイヨクシヤクと共に本県の珍種というべき羊齒である。

18 ヨコグラヒメワラビ *Thelypteris Hattorii*

Tagawa

本種は1929年8月12日に故田代善太郎先生が採集された標本が京大標本室にある。本種は和名の示す如く高知県横倉山に産するのであるが、近畿地方では雪彦山に産するのみであり、未だ他県では発見されておらず、又雪彦山に於ても前記田代先生が採集されて以来、採集記録なく今回の採集に依り2度目の採集である。

19 ミヤマクマワラビ *Dryopteris polylepis* C. Chr.

本種は1株だけ生育しているのを見たのみである。近畿地方では金剛山(大阪府)、大台、山上(奈良県)、

高野山(和歌山県)、八幡村(三重県)、等相当高い山に産し、兵庫県では雪彦山以外に笠形山で葛野一郎氏(播磨植物目録)が採集しているが筆者は標本に接しておらない。しかし雪彦山と同じ様な位置にあるので、産する事は予測される。本種は前記16. 17. 18. の暖地性羊齒と反対に寒地性であるので、丹波、但馬の高山ではおそらく生育するものと思われるので、更に本県産地の追加される事を期待するものである。

20 イワオモダカ *Pyrrosia hastata* Ching

本種は觀賞価値のある羊齒で盆栽家の愛好するもので船越山の住人内海氏はシノブ玉の様につるして栽培していられた。本県の産地としては、雪彦山以外に兵庫県葛沢村岩上国有林(建部恵潤氏)に産す。北海道より九州まで広く分布しているが、量的には多く産しない様に思う。

21 トガリバイヌワラビ *Athyrium iseanum*

Ros. var. angustrisectum Tagawa

ホンバイヌワラビの変種であつて、ホンバイヌワラビの羽片の切れ込みを更にもつと細かくしたものであり、田川先生が比叡山のものをtypeとして発表されたのである。分布としては比叡山、高野山(Faurie)等であり、雪彦山ではヨコグラヒメワラビと同じ場所に生育していた。本県でも更によく調査すればまだ他に産地があるのではないかと思われる。

△ 奥谷村赤西国有林

22 オニヒカゲワラビ *Diplazium nipponicum*

Tagawa

本種は非常に壮大な羊齒で赤西国有林の隣りの谷である音水国有林には長さ2米余に及ぶものが一面に生育しており、田川先生は日本の羊齒ではこれ以上大きなものはないと云つてもよいだろうといわれた。分布としては大体裏日本型のものであり、中国山脈にそつて北上し日本海側に多く北は秋田県あたりまで分布している。本県産地としては、赤西、音水の両国有林の外に但馬妙見山で故田代善太郎先生が採集していられる。(京大標本室)

23 シロヤマシダ *Diplazium hachijoense* Nakai

本種はオニヒカゲワラビに似た種類であるが、赤西国有林で前記オニヒカゲワラビと同じ場所で採集した。しかし分布型は前記オニヒカゲワラビとは全く反対で表日本型であり、近畿地方の分布から云つても、紀伊半島の南部に多くその産地を有し、本種が赤西国

有林に産することは珍しいと云わねばならない。本県では未記録のものであり今回(1951年8月13日)はじめて採集せるものである。

24 クラガリシダ *Dryotaenium Miyoshianum*
Makino

本種は1属1種であつて、ノキシノブに最も近き種であり、最初岐阜県暗りで発見されたためクラガリシダの和名がつけられた。分布は日本中部より台湾、支那四川省に於ても発見され、広く分布するものであるが、産地は少なく、珍しい種類である。近畿地方には本県の奥谷村赤西国有林、高野山(和歌山)、大悲山(京都)、芦生演習林(京都府)等に産する。

25 イワイタチシダ *Dryopteris saxiflaga* H. Itō

本種は寒地性羊歯であつて、イタチシダとよく似ており、岩に着生している。鱗片に特徴があり線形の鱗片がカギ状になつており、鱗片の先は黒褐色で下部の中軸に接する部分は淡褐色である。分布は北海道、本州、四国、朝鮮、南満洲にまで分布している。近畿地方では本県の赤西国有林、他県では彌山(奈良)、知井演習林(京都)、伊吹山(滋賀)等に産することが知られている。

26 カラクサシダ *Pleurosoriopsis Makinoi*
Formin

小型の羊歯であつて長さは6.7cm位しか伸びない。又本羊歯は他の羊歯と成熟期を異にし、夏期我々が最も多く採集に出る頃は、殆んど見当らぬ位で生長しておらず、冬になつて成熟する。分布広く各地に産し、近畿地方に於ても箕面、金剛山(大阪)、芦生演習林、河東村(京都)、高野山(和歌山)、其他各地に産し兵庫県では今回初めての採集であつたが、前述の通り採集の時期が遅うため、生育していても発見出来なかつたのではないかと思われ、本県でも他に産地が期待されるものである。

△ 淡路 猪鼻谷

27 ヘラシダ *Diplazium lanceum* Pr.

本種は本県に於ても各地に産し、珍しいと云う程の羊歯ではないが、戦前に同地で採集せるものに対し、ノコギリヘラシダと報じている。(大阪植物同好会)、猪鼻谷の本種は葉の縁がデコボコしたものが多くので、おそらくノコギリヘラシダとしたのではないかと思われる。しかしヘラシダと何等異るところがなく、区別する必要もなく、又本当のノコギリヘラシダは葉がデコボコした程度のものでなく、もつと深く切れ込んでいると田川先生に御教示していただいた。淡路のノコギリヘラシダは本県の目録より除去すべきではないかと思う。

28 クシヤクフモトシダ *Microlepia marginata*
C. Cnr. var. *bipinnata* Tagawa

本種も本県未記録の羊歯ではあるが、前記ヘラシダと同じく大阪植物同好会が1930年9月に、猪鼻谷で採集せるフモトカグマは本種と間違つて報じたものであると思われる。従つて本県未記録のものであるが、既に採集記録はあるのである。なお近畿地方で各地に報告されているフモトカグマはすべて本種を誤報したものであると思われる。

29 イワヤナギシダ *Loxogramme salicifolia*
Makino

本種は播磨植物目録に久崎、奥谷等に産地が挙げてあるが、筆者は実物に接していない。おそらくヒメサツランの誤報ではないかと思われる。しかしヒメサツランよりも、むしろサツランに近きもので、南に行く程大形になり、サツランと同じ位の大きさになるとの事である。本県では猪鼻谷で得たのみであるが、淡路以外に本州でも或は産地が期待出来るのではないか。

30 ハゴロモシダ *Pteris cretica* L. var.
albolineata Hook.

本羊歯はオオバノイノモトソウの変種ではあるが、本県未記録のものであり、猪鼻谷が初めての採集地であつた。オオバノイノモトソウとの区別は羽片の中央に白いスジが入ることが最もよく知られた区別点であるが、この白いスジはときには、はつきり現れない場合もあり、その他にオオバノイノモトソウの葉は淡緑色なるも、本種はもう少し深い緑色を呈し、葉の全体の形も多少異なる様に思う。近畿地方では各地に産する様であり、本県に於ても更に調査すれば産地が出るのではないかと思われる。

31 オオミツデ *Dryopteris Sieboldii* O. Kuntze

筆者は未採集であるが、1929年9月23日に故田代善太郎先生が猪鼻谷で採集してられ、又1949年11月3日に淡路の河野好博氏が同地で採集してられる。(いずれも京大銀本室に収められてある) 筆者は田川先生と前記河野氏の御同行を得て、同地へ採集に行つたが、運悪く採集出来なかつた。本県では又丹波の氷上郡和田村で山中雅也氏が採集してられる。丹波に本種が産することは注目すべきことであると思う。

32 コウザキシダ *Asplenium davallioides* Hook.

前記オオミツデと同じく河野好博氏の御案内で猪鼻谷へ採集に行つたが、見付ける事が出来なかつた。しかし河野氏が同処から1949年11月3日に採集してられ、京大田川先生に送られている。本県では他に神戸市布引滝に産する報告がある(神戸背山植物調査會。神戸市産業課)が筆者は実物に接しておらず、布引の本種は不確実である。近畿地方では、紀伊半島の南部

(和歌山県、三重県にまたがる)の各地に産地が報ぜられているも、其他の諸県は未報告である。

33 マルベベニシダ *Dryopteris fuscipes* C. Chr.

本種はベニシダの仲間では最も南まで分布するものの1つで、淡路には多い種類である。本県では他に揖保郡新宮町篠首で故田代善太郎先生が1925年5月6日に採集してられる。(京大標本室)別に珍しい種類でもないので本県でも各地に産するのではないかと思われる。本種はサイコクベニシダに近きものであるが、藁堆が小羽片の中央に近く着く。

△ 淡路 三熊山

34 イシカグマ *Microlepia strigosa* Pr.

本種は海岸羊歯で三熊山登山口の旅館の石垣に沢山生育しており、又三熊山麓にも産し、本県では此処以外には未だ報告がなく、おそらく淡路以外では望めない羊歯である。分布として日本では四国、九州の南部海岸地方、紀伊半島南部海岸地方及び房総半島へと飛んでいる。分布の限界が著しくはつきりしており、分布の限界内には量的にも多く産す。三熊山は近畿に於ける分布の北限であると児玉務氏が述べている。又同氏は海岸地方羊歯フロアの好指標植物であると報じている。(科学教育タイムス No.3 1950年近畿南部海岸地方におけるシダフロアについて)

35 アマクサシダ *Pteris dispar* Kunze

本種も三熊山麓で得たものである。本県では兵庫県富瀬村(建部恵潤氏)に産することは、注目すべきである。その他神戸妙法寺川上流に産すると播磨植物目録に記載されてあるが、筆者は実物に接していない。近畿地方に於ては和歌山県、三重県南部の各地に産し、奈良県星田妙見、京都府八幡等である。いずれにしても本県産羊歯としては稀産の部類に入れるべきものであると思う。

△ 其 他

36 タマシダ *Nephrolepis cordifolia* Pr.

本種はイシカグマと同じく海岸性植物である。本県では河野好博氏が淡路沼島で採集されたのが最初である。(淡路島の暖地性植物、寒地性植物、その他、1951年1月兵庫生物1巻5号)筆者は同氏が京大田川先生に送られた標本を先生の御厚意に依り見る事が出来た。近畿地方の分布としては前述のイシカグマの分布線以南で、和歌山県、三重県の南部海岸地方に所々産し、本県の沼島は分布の北限をなすものである。又児玉氏は近畿南部海岸地方羊歯フロアの指標植物であるとしている。(近畿地方シダ類目録1950年)

37 ミヤコノコギリシダ *Diplazium Mettenianum* C. Chr.

前号で報じたイワヤシダの産地兵庫県船起山で得た

るもので、本県未記録の羊歯ではあるが、既に建部、内海の阿氏によつて採集されており、不明の羊歯としてそのまま未発表であった。近畿地方に於ける分布としては、隣りの大阪府には産地がなく、三井寺(滋賀)及奈良、和歌山、三重の諸県では所々に産する。本県に於ても船越山で採集せるのみで、他に産羊が挙げられておらず、本県稀産の羊歯である。

38 カミガモシダ *Asplenium oligophlebium* Bak.

本種は本県で筆者は未採集であるが、宍粟郡葛沢村産のものを建部恵潤氏に御恵興にあずかつた。又丹波の篠山で桑島氏(大阪)が採集してられる。近畿地方の分布としては京都市及びその附近の各地に産し、奈良春日、滋賀伊吹山等で、紀伊半島南部地方には産地としての報告なく、本県に於ても他に産地としては丹波地方に期待されるが、いづれにしても稀産の羊歯である。又本種は観賞価値のある植物で、山草家によつてよく栽培させている。

以上前号の報告を通じて本県の羊歯、38種(含変種)について述べたのであるが、これは1951年1ヶ年間に於ける筆者の採集記録及1部筆者未採集であるが、標本の恵興を受けたもの等であり、確実なもののみを記載した。本県も更に調査を続け、本県産の羊歯類目録を作りたいと願っている。なお調査に当つては、京大標本室の閲覧をこころよく許して下さい、採集による御指導に又標本の同定にと、総てに御援助下さつた田川基二先生に深く感謝し、紙上を以つて厚く御礼申し上げます。又常に採集に御協力下さつた建部恵潤氏、前号記載の羊歯産地について追加の報告を寄せられた樋口繁一、小林平一、岩槻邦男の諸氏の御厚意に対し謝意を表します。なお今後も本県産羊歯につきお気付のものがあれば筆者宛(兵庫県加古川市別府町西脇)御通知ありがたい。

参 考 文 献

- (1) 兵庫県博物館編 播磨植物目録1935年11月
- (2) 建部恵潤 播磨船越山植物目録(兵庫県博物学会会誌第11号)
- (3) 大阪植物同好会 会報第34号1930年11月
- (4) 伊藤 洋 日本羊歯類図鑑1942年
- (5) 児玉 務 ヒメシダの分布について、関西自然科学研究会会誌 No.3 1950年
- (6) 稲田又男 兵庫県下におけるウラボシ科 兵庫県博物学会会誌
- (7) 河野好博 淡路島の暖地性植物寒地性植物其他、兵庫生物、第1巻5号 1951
- (8) 児玉、瀬戸、山中 近畿地方シダ類目録 1950
- (9) 倉田 悟 伊豆天城山の数種の植物 採集と飼育、12巻9号 1950年

(1952. 2. 20)